

平成22年1月15日

No.242

# 畜産会 経営情報

## 主な記事

- ① セミナー生産技術  
稲発酵粗飼料(稲WCS)貯蔵中のネズミ対策  
河本 英憲
- ② おらが故郷の経営自慢  
あなたの夢を応援します!「岡山で和牛を飼ってみませんか?」  
築山 伴文
- ③ 行政の窓  
養豚緊急支援のための追加対策を講じました  
農林水産省生産局畜産部畜産企画課
- ④ あいであ&アイデア  
低コストで簡単!未利用地放牧の飲水施設  
(独)家畜改良センター
- ⑤ 牛肉・豚肉、子牛市況

## 社団法人 中央畜産会

〒101-0021 東京都千代田区外神田2丁目16番2号  
第2ディーアイシービル9階  
TEL 03-6206-0846 FAX 03-5289-0890  
URL <http://jlia.lin.gr.jp/cali/manage/>  
E-mail [jlia@jlia.jp](mailto:jlia@jlia.jp)

## セミナー

### 生産技術

## 稲発酵粗飼料(稲WCS)貯蔵中のネズミ対策

河本 英憲

### はじめに

輸入飼料価格の高騰や自給率向上政策などを背景に、飼料イネの生産量が拡大しています。これら飼料イネのほとんどは、ロールベールとして収穫されて稲発酵粗飼料(稲WCS)として牛に給与されるまで貯蔵されます。

ただし、この稲WCSは、モミを含む飼料であるにもかかわらず、薄いラップフィルムを巻き付けたのみで野外に貯蔵されます。モミを狙うネズミにとって、これほど魅力的なエサはありません。

稲WCSの生産量が増加し、貯蔵期間が長くなるにつれて、ネズミにラップフィルムを破かれて腐敗する事例が多発してきています。

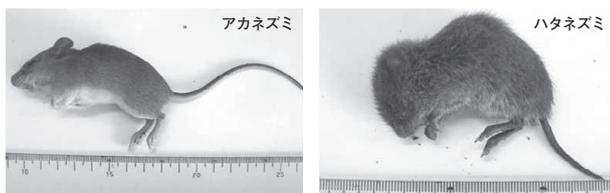
従来の牧草ロールベールではネズミ害はあまりみられず、鳥獣害対策はカラスなどによる突っつきを防鳥ネットで防ぐことが主たるものでした。しかし、防鳥ネットではネズミ害を防ぐことはできません。そのため、稲WCSでは鳥害対策に加え、別途、ネズミ対策が必要となります。この稲WCSのネズミ害は、数年間全く被害がなかった場所でも、ある年から突然発生することがあります。よって、現在は被害が発生していない場合でも対策技術を知っておくことが重要です。

### 稲WCSを狙うネズミ種

森林や農耕地を主な生息地とする野ネズミ類のアカネズミやハタネズミ(写真1)、人の

生活圏を生息域とする家ネズミ類のドブネズミやクマネズミなど（写真2）、日本中のどこにでもいるネズミ種のほとんどが稲WCSを食害します。よって、どのような場所に貯蔵しようとも、ネズミ対策を怠るわけにはいきません。

また、食害にはネズミ種ごとに特徴があります。野ネズミ類は、ロール下の地面にネズミの坑道（トンネル）がみられるとともに、食害発生は冬期、特に積雪後から始まることが多いのが特徴です。また、ロールの底部に食害が集中します（写真3）。



(写真1) 稲WCSを食害する野ネズミ種



(写真2) 稲WCSを食害する家ネズミ種



(写真3) 野ネズミの被害

ドブネズミは、野ネズミ同様、地面に坑道がみられますが、野ネズミと異なる点は、食害発生が貯蔵直後から始まることです。また、食害部位は主にロールの下側部ですが、ラップフィルムの破損程度が著しいのも野ネズミと異なる点です（写真4）。

クマネズミは、積み重ねたロール群の上段ロールにまで食害を拡大させます（写真5）。稲ワラや牧草ロールの上に避難させた稲WCSに食害が出た場合などはクマネズミの仕業が疑われます。また、ロール間に営巣することもあります。

## ネズミ対策の基礎知識

### (1) 保管場所

稲WCSに限らず、ロールバールの品質を保つためには保管場所の排水性が重要なポイントです。コンクリート舗装上が望ましいのですが、砂や砂利を敷いても排水性を高めることができます。ぬかるんだ場所に保管しようとして、下にパレット、スノコやタイヤなど



(写真4) ドブネズミの被害



(写真5) クマネズミの被害

を敷くとネズミ被害を助長します。これら資材はネズミの隠れ場所をつくることになるので、周辺からも撤去する必要があります。ブルーシートを敷くのは、雨水がたまって品質劣化を招くので避けます。

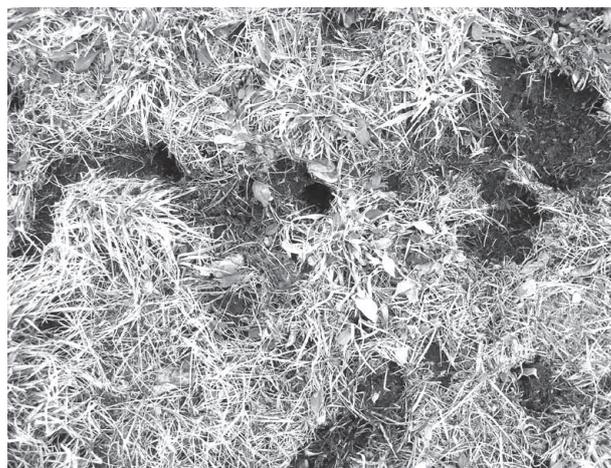
## (2) 殺鼠剤・ワナ

各種殺鼠剤が販売されていますが、たとえば安全性が高いとされる累積毒であっても劇物であり、散布場所や量などに法律上の制約があります。また、ワナの取り扱いにおいては熟練を要します。

野ネズミの生息地では写真6のような巣穴が必ずみられますので、巣穴への殺鼠剤投入やその周りにワナを仕かけて捕殺することによって生息数を減らす効果が期待できます。

ただし、「生き穴」の見極めが難しいことや、稲WCSに食害を始めた後では、野ネズミが稲WCSに入り込んでしまい、殺鼠剤やワナでの駆除は難しくなってしまいます。

一方、家ネズミ（特にドブネズミ）は行動範囲が広いため、殺鼠剤やワナでの捕殺は効率が悪いといわざるを得ません。また、殺鼠



(写真6) 野ネズミの巣穴

剤を稲WCS周囲に置いて、家ネズミは警戒心が高いことに加えて稲WCSに対する嗜好性<sup>しこうせい</sup>が高いため、殺鼠剤やワナに入れる誘因エサの方を摂取させるのは容易ではありません。雨よけをしたネズミ用粘着板で稲WCSを取り囲んでも、時間経過とともに粘着板の効果が低下して容易に突破されてしまいます。

以上のことから、ネズミ対策としての殺鼠剤やワナは過信できません。これらに頼るよりも、保管場所周囲のブッシュ（やぶ）の刈り払いや常日ごろの畜舎の環境整備による発生源を減らす対策が大切です。

## (3) 忌避剤

殺鼠剤と同様、たくさんの忌避剤<sup>きひざい</sup>が販売されていますが、天敵のニオイでさえ5日程度で慣れてしまうネズミにとって、どんな忌避剤も警戒を与え続けることは困難です。忌避剤の効果を持続させるためには、いろいろな忌避剤を数日ごとに取り替えて、常にネズミの警戒心に訴えなければなりません。これは現実的な方法ではありません。

電線などの咬害<sup>こうがい</sup>防止に使われる薬剤や唐辛

子の辛み成分である「カプサイシン」をラップフィルムに塗布しても、思うように効果は得られません。これら苦みや辛み成分は、ガリガリとかじる状況下で効果を発揮するため、数回のかじりで穴が開いてしまうラップフィルムを守ることはできません。ネズミ対策用の超音波機器も販売されていますが、効果は限定的で長続きはしないことが報告されています。ほかに、ヒゲにつくのを嫌がるとされる消石灰ですが、野外での効果は前述の粘着板と同様に持続しません。

以上述べてきたように、野外に長期間貯蔵される稲WCSをネズミから守ることにに関して、殺鼠剤、ワナ、忌避剤は効果的ではありません。何か別の工夫が必要です。

## ロールベールの配置方法を工夫する

通常、ロールベールを保管する場合、積み重ねて密集させます。ネズミが加害するのは、この密集したロールベール群の奥の方に集中します。また、ネズミ被害を受けているロー



(写真7) 広々配置された稲WCSのロール

ールベール群の周りにネズミ用ワナを仕掛けると、ネズミの天敵であるイタチやヘビ、猫が掛かるのにしばしば驚かされます。すなわち、稲WCSが収穫・保管されるような郊外の田園地帯や畜産地帯では、これら天敵がロールベールの周りをウロウロしている確率が高いと考えられます。しかし、これら天敵にとって、密集したロールベール群の奥に入り込んだネズミを捕食することは困難です。このため、ネズミは密集ロールベール群の奥に入り込んでしまえば、天敵に襲われることなく安心して食害を続けることができます。それならば、このような状況を作らないようにロールベールの間隔を空けて見通しを確保すれば、ネズミは食害をためらうと考えられます。

もともとラップフィルムへの負担を避けるため、ロールベールは10cm程度離して配置するのが推奨されていますが、ネズミ対策では間隔をより大きく空けます。すなわち、ロールベールを50cm以上（小型のミニロールは30cm以上）の間隔を空けて広々と配置（以下、広々配置）して見通しを確保します（写真7）。この広々配置では、天敵のみならず、人でもロールベール間を見回ることができ、ラップフィルム破損などへの対応も行えます。

## 広々配置の効果をもとめるために

被害を受けている生産現場で広々配置の効果を確認したところ、1年にわたる長期保管でも被害を著しく抑制できました。ただし、いろいろな状況下で行った実験結果や、この広々

配置を導入した生産現場から、広々配置を行っても必ずしも効果が得られないという状況に遭遇しました。これら失敗した状況やうまくいっている状況から厳選した広々配置の効果を確実にするノウハウは以下の通りです。

### (1) 鳥害対策と除草

鳥害対策として防鳥ネットや網ですっぽりおお覆う方法は天敵の出入りも阻止してしまうのでテグスを使用します。また、定期的に除草を行う必要があります。

### (2) 底部を守る

野ネズミ類が生息する裸地に長期間貯蔵する場合、広々配置のみでは特に冬季間に底部から被害を受けてしまいます。その場合は、下に網目1cm以下の金網を敷くことで被害を軽減できます。

金網は線径1mm程度のビニール被覆ひふくきっこう亀甲金網が柔らかくてラップを傷めにくいので推奨されます。また、金網はロール間を含む全面に敷く必要はなく、ロール下のみで効果があります。細断・攪拌機能かくはんのないコンバイン型専用収穫機で収穫したWCSの場合、穂がロールベールの一方に偏るので、1段目のロールベールでは、穂を上にするだけで被害を軽減できます。2段目のロールベールでは、穂を下にして上下で「穂合わせ」をして定置すれば鳥害対策にもなります。

### (3) 積雪に注意する

広々配置を行うと、1m径ロールで1.5倍以上の設置面積が必要となるため、貯蔵場所を分散させるなど、貯蔵スペースを十分に確保する必要があります。特に積雪地帯におい



(写真8) 雪のブリッジによるロールベール間のしゃへい遮蔽

ては、間隔が狭いとロールベール間に雪のブリッジ(写真8)がかかって効果がなくなってしまいます。

積雪地帯で間隔を空けて置いたにもかかわらず、思うような効果が得られない場合は、大抵、間隔の空け方が不十分で、雪のブリッジによってロール間が遮へい状態になっていることが原因です。ロールベールは時間経過とともに膨張してしまうこともあります。繰り返しますが、積雪地帯では貯蔵スペースを十分に確保するか、分散して配置するなど、十分な間隔の確保に努めることが重要です。

### (4) 緩衝地帯を設ける

ネズミの発生源が近いと、そこからネズミは通ってきます。よって、発生源である林や畜舎との間に5m程度の雑草や障害物などの緩衝地帯が必要です。また、木陰を避け、日当たりの良い場所が適しています。

### (5) 天敵の脅威を

自然豊かな地域には、さまざまなネズミの天敵がいます。このような地域では、いつもヘビやイタチがネズミのすきをうかがってい

ます。防鳥ネットはこれら天敵に絡みついで自由を奪ってしまいます。このような天敵の障害となるものを取り除き、許す限り間隔を大きく空けて天敵の脅威が最大限に発揮されるように工夫することが重要です。広々配置をしたけれど、天敵が存在するかどうかが不安という場合は、飼い猫を活用することも効果を高めると期待されます。

## おわりに

本稿で解説したネズミ対策の中心技術である「広々配置」は、単に間隔を空ければ良いというわけではなく、ネズミ対策の基本と技術の意図の理解が不可欠であり、効果を高めるための留意点に気をつけて実施しなければなりません。このため、本稿で解説したネズミ対策は、「稲発酵粗飼料貯蔵中のネズミ

対策マニュアル」(2009年9月発行、写真9)にとりま  
とめ、広々配置が  
正しく普及するよ  
うに努めていま  
す。マニュアルは  
A4判見開き3枚  
で東北農業研究  
センター (TEL :

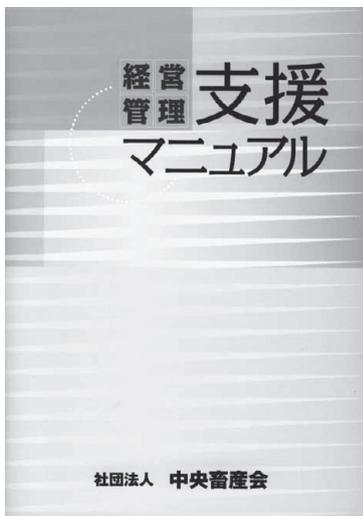


(写真9) ネズミ対策マニュアル

019-643-3414、E-mail : [www-tohoku@naro.affrc.go.jp](http://www-tohoku@naro.affrc.go.jp)) から無料配布されています。また、東北農業研究センター HP (<http://tohoku.naro.affrc.go.jp/>) の「刊行物の紹介」→「研究成果パンフレット」からもダウンロードできます。どうぞご利用ください。  
(筆者：(独) 農研機構・東北農業研究センター 東北飼料イネ研究チーム・主任研究員)

### ●参考図書●

## 経営管理支援マニュアル



近年、農業・畜産分野において地域の担い手育成の手法として、また経営体質強化の手法として法人化が急速に進められています。本書は、畜産経営の経営管理能力を向上させるために必要な会計・財務管理、資金の調達、法務、法人化などの事項について、最近の畜産情勢にみる課題と新しい制度・状況などを踏まえて検討し、取りまとめたものです。法人化を考える畜産経営者はもちろんのこと、経営指導者必携の1冊です。

### 【主な内容】

- 第1章 会計・財務管理
  - 第2章 資金調達とその管理
  - 第3章 税務
  - 第4章 経営継承の取り組み
  - 第5章 畜産経営に対する法人育成支援の進め方～法人化・法人育成の意義と効用～
- 参考資料 畜産経営が利用できる主な制度資金と使いみち

(社) 中央畜産会 事業第一統括部 (情報業務)

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-16-2

TEL 03-6206-0846 FAX 03-5289-0890 E-mail [book@jlia.jp](mailto:book@jlia.jp)

## ・おらが故郷の <sup>クニ</sup> 経営自慢



# あなたの夢を応援します! 「岡山で和牛を飼ってみませんか？」

築山 伴文

あなたの夢を応援します！「岡山で和牛を飼ってみませんか？」

こう呼びかけて、3年目になります。岡山県が平成19年度からスタートさせた「肉用牛入門講座」のキャッチコピーです。新たな肉用牛農家の発掘・育成を図るための小さな試みですが、その概要などを紹介します。

### 実施に至った背景・経緯

～ただ手をこまねいても始まらない～

本県における和牛繁殖雌牛の飼養頭数は、年々減少していましたが、15年をピークに下げ止まり、最近はやや増加傾向にあります。数年来、生産基盤の維持・拡大を目指し、「岡山和牛の増頭に向けて」と銘打った各種取り組みの効果と生産者や関係者の努力の成果といえるでしょう。しかし、安心などしていません。農家戸数の減少に歯止めがきかないからです。

畜産の中でも肉用牛繁殖経営は、高齢化や後継者不足が深刻です。例えば、私が入会した平成7年当時約1800戸あった農家は、今や約600戸、実に3分の1にまで減少してしまいました。この状況に、ただ手をこまねいても始まりません。それに、規模拡大によ

る増頭だけで、本当の意味での生産基盤の拡大といえるのでしょうか？ 底辺の拡大、すなわち、担い手の確保と両輪でなければならぬはず。当時、そう感じてやまない熱き県の担当者がいたことを思い出します。

ある時、興味深い記事を目にしました。他県の担い手対策です。早速、私たちは現地に足を運びました。帰りの新幹線では、もう来年度の構想で意見があふれました。ただ、既に日にちは、19年1月24日。予算がありません。そうはいっても、もう1年待つほど余裕もありません。幸いなことに、本県畜産課には、素晴らしい横の連携がありました。酪農サイドで企画していた畜産担い手確保対策事業（初期投資の多い畜産分野で担い手を確保するため、離農跡地や経営継承希望者の施設などを円滑に継承させるシステムの構築等）に組み込ませてもらったのです。構想からわずか70日後、当協会は、県と事業実施の委託契約を交わし、新たな担い手対策「肉用牛入門講座」の幕が上がりました。

### 受講者の募集状況・経歴等

～周りの誰もが潜在的担い手?～

本講座の募集対象は、「肉用牛の飼育に興味

(表) 受講生の年齢構成等

(単位：人)

区分		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	合計
第1期	男性	1	1	1	2	4	9
	女性		2		1		3
	全体	1	3	1	3	4	12
第2期	男性	2	1		2	1	6
	女性						0
	全体	2	1	0	2	1	6
第3期	男性	3	1	2	1	1	8
	女性		1		2	1	4
	全体	3	2	2	3	2	12
合計	男性	6	3	3	5	6	23
	女性	0	3	0	3	1	7
	全体	6	6	3	8	7	30



(写真1) 20年度先進地視察 (広島県)

があり、将来岡山県で就農（肉用牛経営）を希望している方」とだけ記載しました。新しい担い手を発掘するためには、門戸は広い方が良いと考えたからです。若い世代の新規就農者はもちろん、定年帰農予定者や他産業従事者、畜産他部門からの参入希望者も大歓迎。ただ、やはり問題（不安）は、受講者の確保でした。こちらの思いが空回りしないとも限りません。パンフレットの配布に加え、新聞、インターネット上のホームページ「おかやま畜産ひろば」、JAや団体などの広報誌などを利用し、できるだけ広く周知を図りました。

結果は、1年目12人、2年目6人、3年目12人の参加がありました（実際の申込数は、毎年参加者プラス2～3人あり）。性別・年齢構成は、表の通りで、幅広い世代層となっており、経歴も次のような期待通りのさまざまメンバーとなりました。新規就農（他産業などからの参入）希望者6人、繁殖経営後継者2人、定年前後での参入予定者3人、畜産他部門（酪農・和牛肥育・交雑牛肥育・養鶏）からの参入希望者16人、農地の荒廃抑制や生きがい対策者3人。このことは、周りの誰も

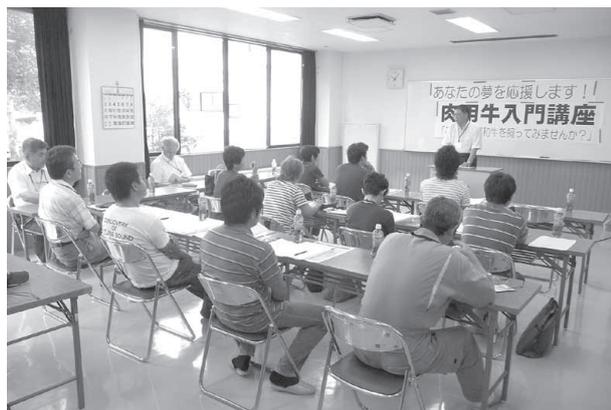
が担い手になる可能性を持つということなのかもしれません。なお、動機については申込書で記入してもらっていますが、肉用牛経営を職業として生計をたてたい方、職業の選択肢のひとつとして考えており、自分の適性などを判断したい方、自分（地域）の農地を荒らさないために牛を飼いたい方、1～2頭飼いで小遣い程度の収入がほしい方、とりあえず参加してみたい方、とにかく興味があった方と、こちらもさまざまでした。

## 講座の内容

～手探りで始めた1年目～

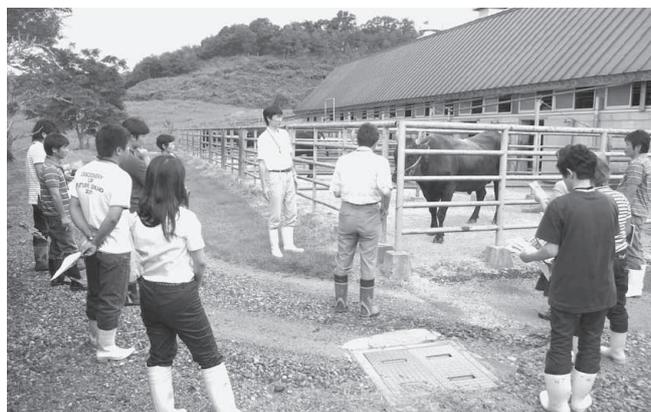
肉用牛経営を始めるきっかけをつくるため、年間4回にわたる本講座を設定しました。知識や技術の習得はもちろんのこと、まずは牛を好きになってもらいたい。何でも相談できる仲間を作ってもらいたい。そんな願いも込めています。講座の内容を紹介する意味で、手探りで始めた1年目を振り返ってみたいと思います。

記念すべき第1回（19年9月）は、本県総合畜産センターにて開催。開校式（自己紹介



(写真2) 21年度開校式

含む)を行った後、肉用牛の現状や経営、飼養管理に関する3題の基礎講習と同センター内の視察研修を実施しました。この日いかに、受講生の思いを把握できるかがポイントです。第2～3回は、10月～12月の期間に、県内の肉用牛先進農家(関係機関から推薦された12戸)で牧場体験実習を行いました。超早期親子分離やETを活用した子牛生産、放牧を取り入れた省力管理など、先進農家の特徴を参考に、受講生自ら2ヵ所を選び、作業体験や経営のノウハウを学びました。「百聞は一見にしかず」ならぬ「一作業にしかず」といったところで、実際に体験することで吸収できることもあります。



(写真3) 21年度視察研修(県総合畜産センター)

最後の第4回(20年1月)は、全農総合家畜市場にて開催。子牛セリ市場の視察を行った後、営農支援にかかる補助事業や融資制度の説明、空き牧場情報の提供のほか、実習受け入れ農家を含めた意見交換会などを実施し、閉校式にて終了としました。

意見交換会では、各々が実習での感想や将来の夢を語り、素朴な疑問や技術的な質問を投げかけるなど、活発な発言の場となりました。また、先進農家からは、質問に対して的確な回答だけでなく、「日々の積み重ねが最も重要」「挑戦したら失敗はつきもの。でも、それを最小限に食い止める努力が必要」「1人でやっていけるものではない。仲間づくりが一番大切。自分たちも仲間が増えてほしいから頑張ってもらいたい」「家族と一緒に働けて、こんな楽しい仕事はない」など、さまざまなアドバイスもいただきました。関係者としても本当にありがたく、勇気をいただける言葉の数々でした。

ちなみに、受講生には、閉校式で修了証を交付しています。「何かの資格と違って、この修了証自体に効力があるというものではないが、基礎的な知識と技術を習得したこと、先進農家と知り合えたこと、何より同じことを志す仲間が何人もいることを示す証明書であることは間違いない。就農後、牛舎か事務所の片隅にでも、この修了書が飾られていたら、こんな幸せなことはないだろう」と、本協会の機関誌「おかやま畜産便り」に記したことがあります。先般、ある受講生の農場を訪れたとき、額に入った修了書を牛舎の壁に見つ

けることができました。いまだに目に焼き付いて離れません。

## 見聞を広げる講座内容

～就農後のスキルアップも考えた2・3年目～

なお、2年目は、第1・2期生合同で、10月に先進地視察（県内外）や3月にフォローアップ研修を実施しました。先進地視察には、実習受け入れ農家も参集しており、見聞を広げることに加え、横のつながりを構築するためにも有効です。今後も就農後のスキルアップなどを図るため、ぜひ続けていきたいと考えています。

3年目は、今年の1月22日に最終回を迎えます。今年度は、少し趣向を変えてみたいと思っています。牧場体験実習でも見る機会の少ない、毛刈り、調教、削蹄、除角、鼻環装着、審査（牛の見方）といったことを実演してみたいと思います。講師には、全農担当者や実習受け入れ農家、私が最もよく知る人物などを予定しています。毛刈りや調教などは、ベテラン肉用牛農家でも難しい技術ですが、大変興味深いところです。もちろん毎年、各種研修会や共進会といった関係行事を案内し、参加を促しています。

## 第1期および第2期受講生の就農状況

～合計で55頭の増頭を実現～

受講者の就農状況は最も気になるところです。第1・2期生では、まったく畜産に携わっていない方が3人（すべて1期生）いましたが、そのうち2人が就農を果たしています。



(写真4) 21年度牧場体験実習（牧区移動／新庄村）



(写真5) 21年度牧場体験実習（手入れ／美作市）

1人は広島県の岡田朋子さん。岡田さんは広島大学で技術職員として勤務していましたが、荒廃地が牛の放牧によって美しい景観を取り戻していく姿に魅力を感じて、10年前に牛飼いになることを決意。その間、結婚・出産を経て、計画を実行に移すために着々と準備を進めていました。そして本講座を受講し、牛の導入先や補助金制度などについても情報を得て、20年11月に岡山県新見市の古民家を改築し、家族とともに移り住み、和牛繁殖牛3頭の牛飼いをスタートさせました。

放牧地は自宅の周囲にある遊休地1.6haで、電牧も手作り。なるべくお金や手をかけずに、家族との生活を大切にしながら「趣味の牛飼い」を実践しています。

まさに、ご主人の理解のもと、夢を実現した格好です。現在、繁殖雌牛4頭を飼養しており、すでに子牛市場への初出荷も果たしています。

もう1人は50歳代の男性で、休耕田を活用した放牧を実施し、繁殖雌牛2頭の飼養を開始しました。こちらも、初出荷を実現しましたが、ちょうどその日が第2期生の最終講座（市場視察および意見交換会など）だったこともあり、就農事例として体験談を発表してもらいました。

残念ながらもう1人は、就農までには至りませんでした。人工授精師の免許を取得し、作物などの研修も受けるなど将来を模索しているところです。

次に、畜産他部門からの参入希望者が9人いましたが、受講当時、繁殖雌牛をまったく飼養していなかった5人のうち3人が飼養を開始し、既存の経営に繁殖部門を加えています。1人は現状のままですが、もう1人は、受精卵移植を活用して誕生した和牛子牛を子牛セリ市場に出荷するまで飼養するなど、牧場体験実習等が活かされています。そして全体の18人で見ると、合計（実質12人）で55頭の増頭を実現しており、本講座の効果は極めて大きいものとなっています。

## おわりに

～畜産で夢を語れ～

肉用牛経営に担い手不足が叫ばれて久しいですが、昨年に至っては、学生の内定取り消しや派遣村などが話題となり、失業率も過去



(写真6) 夢を実現した岡田朋子さん

最高だったと聞きます。健康志向の高まりや「シブヤ米」ではありませんが、どこから農業に目が向くかは分かりません。もしかしたら、多くの方が畜産に興味を持つ可能性も秘めています。今まで以上に、肉用牛経営の魅力をアピールしていく必要があるはずです。もっと多くの方々に、特に若い世代の人たちに、畜産で夢を語ってもらいたい。そして、まずはスタートラインに立ってもらいたい。そのための環境づくりが私たちの使命です。本県の取り組みもまだまだ始まったばかりです。飛躍的な問題解消にはつながらないかもしれませんが、まずは第1歩を踏み出し、小さいことでもコツコツと積み重ねていけば、いずれ大きなことにつながっていくと信じています。夢と希望を持って頑張ろうとしている方のお手伝いができることは、何よりうれしいことです。今後も改善を重ね、より有意義な講座にしていきたいと強く感じているところです。新たな肉用牛経営の担い手育成・確保が進み、本県肉用牛の生産基盤が拡大されることを期待してやみません。

(筆者：(社)岡山県畜産協会経営指導部調査役)

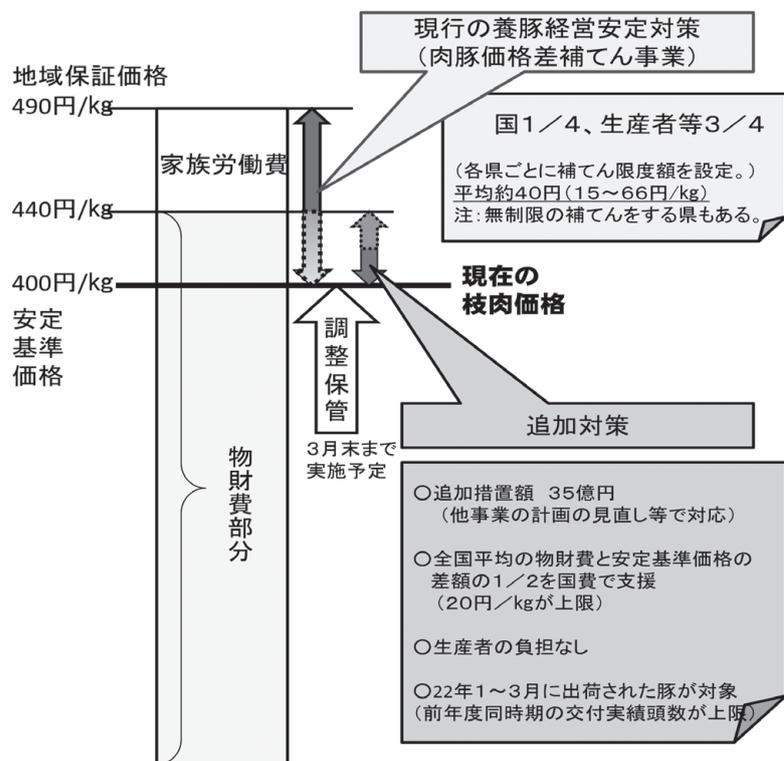
## 行政の窓

# 養豚緊急支援のための追加対策を講じました 養豚経営の安定化のため1~3月に1頭当たり最大約1500円補てん

農林水産省生産局畜産部畜産企画課

農林水産省は、平成21年12月15日、(独) 農畜産業振興機構を通じて、養豚経営の安定を図るための対策を緊急に講じることとしましたので、お知らせします。豚肉の卸売価格は、出荷頭数の増加や景気低迷により、21年7月以降大幅に低下したため、10月中旬から調整保管を開始しましたが、12月に入っても枝肉1kg当たり400円程度にとどまっているため、養豚経営は極めて厳しい状況にあります。このため、地域肉豚基金を補完する形で、20円/kg（1頭当たり約1500円）を上限とする緊急対策を実施するものです。

(図1) 養豚緊急支援対策のイメージ



## 養豚緊急支援対策の概要

肉豚価格（東京食肉市場および大阪食肉市場の「極上」または「上」規格の加重平均価格）が、肉豚生産における全国平均の物財費相当の440円/kgを下回った場合に、その差額の2分の1相当の補てん金を交付します。

なお、400円/kg（安定基準価格）を下回った場合、補てん金単価は上限の1kg当たり20

円となります。また、月ごとの枝肉単価が400円/kgを上回った場合、補てん金単価は減額となります。

〈具体的な内容〉

☆補てん対象者：

現行の肉豚価格差補てん事業の参加者

☆補てん対象となる肉豚：

- ・平成22年1~3月に出荷される肉豚
- ・ただし、前年度同時期の交付実績頭数が上限

・また、現行の各県における肉豚価格差補てん事業の規格に該当する肉豚

☆補てん金単価：

(独) 農畜産業振興機構が月ごとに算定し公表。枝肉 1kg 当たり最大 20 円。

☆補てん金の交付：毎月交付

☆生産者の負担：なし(積立金は不要)

☆事業参加に必要な手続き：

補助事業であることから、事業参加申込書が必要です。各県の肉豚価格差補てん事業の事業実施主体に提出してください。

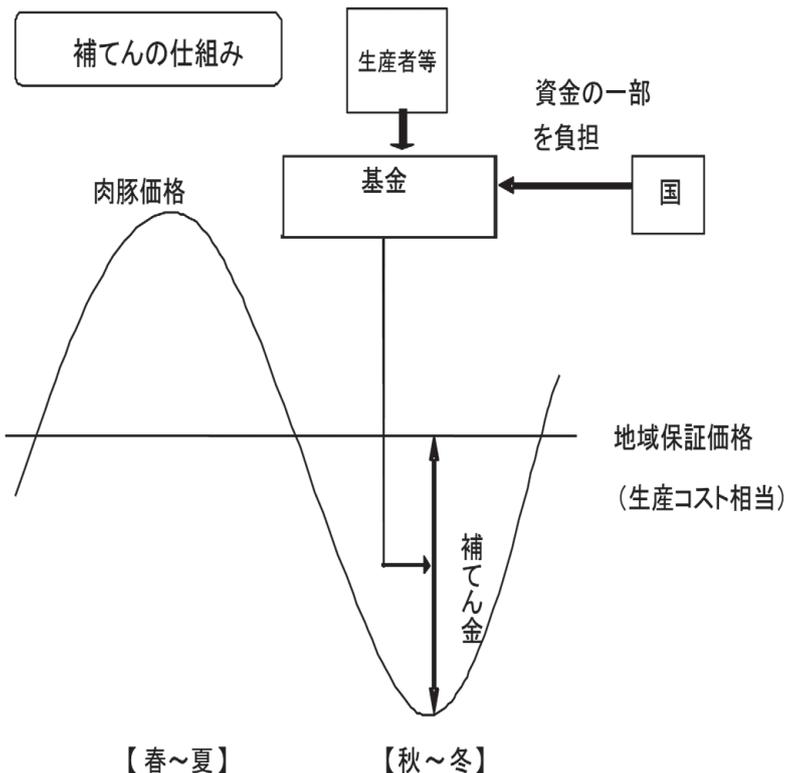
☆補てん金の交付に必要な手続き：

肉豚価格差補てん事業の販売報告に基づき、補てん対象頭数の確認をします。販売報告を速やかに提出してください。

(できる限り翌月の月上旬までに提出してください。なお、3月分は4月上旬に提出されないと、補てん金が交付できない場合があります)。

(図2) 養豚対策の概要

**肉豚価格差補てん緊急支援対策事業**  
 ○平成7年度から実施  
 ○平成21年度予算額 43億円  
 ○平成20年度当初交付額 108億円  
 (国費の他に生産者等の積立分も含む)



の肉豚価格差補てん事業の肉豚基金が枯渇し、養豚経営が極めて厳しい状況に置かれていることにかんがみ措置するものであることから、肉豚価格差補てん事業参加者に限ることとしました。

**養豚緊急支援対策に関するよくある質問**

問1 事業参加者を肉豚価格差補てん事業に限るのはなぜですか。

答 今回の緊急支援対策は、肉豚価格差補てん事業に参加して自らの経営の安定を図ろうとしている者に対して、多くの県

問2 今から肉豚価格差補てん事業に加入できますか。

答 平成21年12月までに加入していなかった者については、自らの経営判断で加入しない者であることから、加入を認めることはできません。

**問3** 平成21年度から新規参入した者は、昨年度の交付実績がないので、対象とならないのですか。

**答** 21年度に新たに肉豚価格差補てん事業に参加した新規加入者については、昨年度の交付実績がありませんが、特例的に、昨年度の出荷頭数と今年度の契約頭数のうちどちらか少ない方の頭数を交付実績頭数とみなし、対象とします。ただし、ここで言う出荷頭数とは、各県の現行の肉豚価格差補てん事業で補てん対象（規格等が合致）となるものを指します。

例）A県の現行の肉豚価格差補てん事業で補てん対象が「中以上」である場合は、出荷した肉豚のうち「中以上」の頭数のみが対象となります。

**問4** 枝肉1kg当たり20円を上限とする考え方を教えてください。

**答** 現時点のデータにより推計した全国平均の物財費相当額と、調整保管等で買支えられる目安の安定基準価格との差額に着目し、その1/2を国が補てんするというものです。

**問5** 毎月の補てん金の対象頭数は、前年度同時期の交付実績頭数を上限としていますが、どのように決めるのですか。

**答** 前年度同時期の交付実績頭数とは、契約生産者ごとの平成21年1～3月の3ヵ月間の交付実績頭数であり、その頭数を確定させます。

次に、契約生産者の21年1～3月の交付実績頭数と22年1～3月の毎月の出荷頭数を比較して、月ごとの出荷頭数の累積頭数が交付実績頭数を下回っている場合は、全出荷頭数が対象となります。ただし、ここで言う出荷頭数とは、各県の現行の肉豚価格差補てん事業で補てん対象（規格等が合致）となるものを指します。

交付実績頭数と月ごとの出荷頭数を比較して、月ごとの出荷頭数の累積頭数が交付実績頭数を上回った場合は、上回った月の出荷頭数のうち交付実績頭数を超えない頭数が補てん対象となります。

**問6** 平成20年度に肉豚価格差補てん事業に加入していた者の農場を買収して、21年度に増頭した者については、どのように扱われるのですか。

**答** 本事業の趣旨は、増頭した分は対象外にすることであることから、仮に買収された者が平成20年度に肉豚価格差補てん事業に加入していたとしても、買収した者はその分だけ増頭したことになることから、これを交付実績頭数に加えることはできません。

**問7** 補てん対象は、省令規格の「上」以上のものだけですか。

**答** 補てんの対象となる規格については、現行の各県における肉豚価格差補てん事業で対象としている規格となります。

問8 生産者の拋出を求めない理由は何ですか。

答 今回の緊急支援対策は、養豚経営が非常に厳しいという事情にかんがみ緊急的に措置するものであることから、生産者からの追加拋出を求めることは困難であること、事務量を減らして円滑かつ迅速に実施できるようにする必要があることを勘案し、国の補助相当額を交付することとしたものです。

問9 補てん額は、誰がどのように決めるのですか。

答 補てん額は、(独)農畜産業振興機構が算定のうえ各県事業実施主体に対して通知するとともに、(独)農畜産業振興機構のホームページでも公表する予定です。

問10 枝肉価格が400円/kgを上回った場合の補てん額は、いくらになりますか。

答 仮に、枝肉価格が410円/kgとなった場合は、440円と410円との差額である30円の1/2の15円が補てん額となります。なお、枝肉価格が物財費相当額である

440円/kgを超えた場合は、補てん金は交付されません。

問11 枝肉価格が400円/kgを下回った場合の補てん額は、いくらになりますか。

答 仮に、枝肉価格が390円/kgとなった場合は、440円と400円との差額である40円の1/2の20円(補てん上限額)が補てん額となります。

問12 全国一律の仕組みとする理由は何ですか。現行の肉豚価格差補てん事業と同様に、各県ごとに補てん額を計算するようにはできませんか。

答 現行の肉豚価格差補てん事業は、各県が独自に実施してきた事業を支援するという趣旨で、各県ごとに保険設計を行い、補てん水準などを決定してきました。

しかし、国内生産量の増加などから枝肉価格が大幅に低迷し、現行の肉豚価格差補てん事業の基金が枯渇するという養豚経営の厳しい状況に緊急に対処するため、今回の追加支援対策は全国一律の仕組みとしました。

### 養豚緊急支援対策の問い合わせ先

#### 対策の仕組み

農林水産省生産局畜産部畜産企画課

●担当：関村、桑原、村田 ●TEL：(代表) 03-3502-8111 (内線) 4890

#### 対策の参加申し込み、補てん金の交付等

各道府県の肉豚価格差補てん事業の事業実施主体

**アイデア & アイデア**

# 低コストで簡単！未利用地放牧の飲水施設

(独) 家畜改良センター

放牧を行う上で飲水の確保は絶対条件ですが、湧き水などの自然水源が近くにあっても、これを直接家畜に利用させることは水の汚染につながります。

また、牛舎から離れている未利用地については、自然水源による飲水の確保が困難なケースが多くみられますが、飲水を放牧地に毎日運搬すると重労働であるとともに、そのための時間も要します。

そこで、未利用地放牧での飲水施設を低コストで簡単につくるアイデアを紹介します。

## 湧き水などの自然水源を利用する場合

### 給水施設

廃材となっていた200ℓのドラム缶を半分に切断したものを利用しました。また、カゴ状コンテナを湧水口に設け、簡易なゴミ除去の工夫を施しました (写真1)。



(写真1)

飲水器への給水は貯水タンクが水槽よりも高い場所に設置すれば、ビニール製のホースを利用して、自然落下による給水が可能です。



(写真2)



(写真3)

### 飲水施設

水槽に使用するのは、廃材のプラスチック製容器や、古いステンレス製の浴槽 (写真2)、また、廃LPGガスボンベを加工して利用することもできます (写真3)。

LPGガスボンベを利用する場合、使用可能年限が過ぎて高圧検査所で廃棄処分されたものは、内部を水洗いしてあるためガスの残留がなく、すぐに加工することができます。高圧検査所を通過していないものは、一度ボンベを立てた状態で水を注入して満杯にしてから横倒しして、水を半分以上排出してから加工します。

### コスト

廃材を利用しているため経費はかかりませんが、参考までに写真1の同等品を購入すると表1のようになります。

表1

水槽	2,838円 (角形つけもの容器)
貯水タンク	54,979円
	内訳
	200ℓドラム缶 43,312円 カゴ状コンテナ 3,333円 ビニール製ホース 8,334円
合計	57,817円

### ■ 注意点

給水管や飲水器などにゴミが混入しないように、カゴやザルなどのフィルターを設置して除去することが必要です。

なお、水槽を移動することができない場合は、飲水器周辺の<sup>でいねいか</sup>泥濁化を防止するため、飲水器に止水弁を取り付けて放流水を減らすとともに、下にスノコを置くなどの排水対策が必要です。

また、浴槽などの高さのある容器を水槽として利用する場合は、容器の底面にゴミがたい積し、飲水が汚染されるため、定期的に飲水器を清掃するなどの衛生対策が必要となります。

## 飲水を運搬しタンクに貯水する場合

放牧地周辺に湧き水などの水源がない場合、貯水タンクを設置する必要があります。

### ■ 給水方法および給水施設

ホームセンターなどで入手可能な大型ポリタンクを利用して貯水タンクにします（写真4）。



（写真4）

### ■ 飲水器

飲水器は廃材のドラム缶を半分に切断したものに、泥濁防止のための止水装置（フロート）および保定用の枠を取り付け利用しました（写真5）。

また、止水装置部分は牛が壊さないようカバーをつけたほか、洗浄が容易にできるように止水栓を取り付けました。



（写真5）

### ■ コスト

表2

飲水器	4,000 円 内訳▼ 給水用フロート一式 ：4,000 円 止水栓：（廃材を利用） 水槽：0 円 （廃材を加工し作製） 保定枠：0 円 （ " " ）
貯水タンク	24,900 円
合計	28,900 円

### ■ 注意点

貯水タンクと飲水器の配管資材は放牧地を横断しない場合はビニール製のホースで十分ですが、牛が踏む危険性が高い場合は蹄圧に強いポリエチレン製が適しています。

また、飲水施設は飲水場周辺が泥濁化しやすいことや未利用地1ヵ所当たりの面積が限られているうえ、点在中のことが多いことから、転牧の可能性も考慮し移動可能な施設とすると有効です。



あいであ & アイデア